

# きんもくせい

令和3年2月9日発行  
静岡県養護教諭研究会  
代表 臼井 悦子  
(小山町立小山中学校)



明るい未来へ



静岡県養護教諭研究会 副会長 原 陽子

100年前、世界中で「スペインかぜ」が流行して、多くの命が奪われました。終息までには2年かかり、ウイルスは変異をしながら「3つの流行の波」があったそうです。現在流行している新型コロナウイルス感染症と比較されることが多いですが、100年の歳月で医学は確実に進歩しました。治療に関わる医療従事者の皆さん、ワクチンの開発に関わる研究者の皆さん、多くの方々の御尽力に、本当に日々感謝です。一方、感染拡大の原因が「人の移動」と「人が集まり密集する」であることは、今も昔も変わりません。毎年寒くなると、インフルエンザの流行に備えて感染症対策に孤軍奮闘の養護教諭。でも、この冬は学校のみならず、日本中、世界中が感染症対策一色です。温度差があったとしても「全員が同じ方向を向いて取り組む」ことの効果の大きさを実感します。

2020年は、宇宙にまつわる明るいニュースもありました。上空を通過する国際宇宙ステーション ISS を運動場から先生方と見上げ、野口さんに手を振りました。はやぶさ2は、壮大なミッションを成し遂げて、地球に玉手箱を届け、また旅に出て行きました。どれだけの人たちが、どれほどの年月をかけてこれらの計画を進めてきたのでしょうか。すべての人の仕事が繋がって成功したミッション。また、その一人一人も誰かの何かに支えられている。メディアの取材に答える関係者の笑顔を見て、自分自身も同じだなと感じました。保健室にやってくる生徒にも、元気をもらう毎日。明るい未来に向けて、新しい年が始まりました。100年後、「修学旅行は宇宙へ」という時代がやってくるのでしょうか。

## 会誌 「たちばな 63号」 発刊

今年度は、会誌「たちばな 63号」を、全会員のお手元にお届けしました。「新型コロナウイルス感染症」の流行という今までに経験したことのない歴史的な出来事に対応している中で、「コロナ禍の記録を会員一人一人に残してほしい」という役員の思いから「新型コロナウイルス感染症の対応に関する特集」が掲載されています。

また、資料提供をしていただいた先生方の御厚意により、研究会ホームページの会員限定ページへ掲載し、ダウンロードができるようになっていきます。静岡県養護教諭研究会ホームページの画面右上「ログイン」をクリックし、ログインIDとパスワードを入力するとメニュー画面の一番下に「会員限定ページ」が表示されます。ログインIDとパスワードは、「たちばな 63号最終ページ」に記載されています。ぜひ、御活用ください。

# ホームページは情報の宝庫

静岡県養護教諭研究会のホームページには、代表者研修会の報告、研究会の様子、養護教諭にかかわる実態調査の結果など、本研究会の最新情報が随時アップされています。このほかにも、保健室訪問、研修会案内、保健新聞等、役立つ情報が満載です。スマートフォンやタブレットからも閲覧可能です。



## 浜松地区

浜松地区は、小学校 99 校、中学校 49 校、(内小中一貫校 3 校)、会員数 167 名の大所帯の組織で、中学校区ごと 8 つのブロックに構成されています。「養護教諭の資質向上を目指して」を研修テーマに、地区ごとの課題解決に取り組むブロック別研修会と、専門講師を招聘した学校保健会研修会を行っています。今年度は、各研修会が中止となる中、学校保健会研修会では浜松市教育総合支援センター、稲川秀子氏を講師に招き、動画配信により「医療的ケア」について研修を深めました。

平成 29 年度からは研究推進委員会を立ち上げ、研修内容の充実と、職務の標準化を図ることを目的に取り組んでいます。令和元年度には、市教委や関係機関からの指示事項や情報提供等をまとめた「職務 Q & A」を作成し、一人職の養護教諭がどこの学校でも正確で適切な保健管理や事務処理を行うことができるようにしました。

今後も浜松市ならではの組織力を生かし、仲間と知恵を出し合い、組織の結束と資質向上を目指して日々研鑽していきたいと思ひます。

## 地区紹介

## 富士宮地区

富士宮地区は、小学校 21 校 (複数配置校 2 校)、中学校 13 校、会員数 36 名で健康教育部が組織されています。

「生きる力をはぐくむ健康教育」～学校運営を意識した小中連携による学校保健活動を目指して～」を研究テーマに、主に中学校区で集まった 6 つのグループで研修を進めています。内容は、「学校保健委員会の取り組み」「不登校・保健室登校児童生徒への関わり」「保健室経営計画作成」「事務処理の効率化」「保健調査票データ化」「LGBTQ 職員会議資料作成」です。今年度は班別研修の回数が少なくなりましたが、各班、工夫をしながら取り組んでいます。

また、本市の健康教育の特色である「学校医との合同研修会」は、例年 3 回行っていますが、今年度は方法を変えながらも、学校医・学校歯科医・学校薬剤師から、専門的な指導を受けています。

今後も縦と横の連携を大切にしながら、PDCA サイクルを念頭においた研修に取り組んでいきたいと思ひています。